

<残雪>立秋を迎えても雪の残っている富士が見られる年は稀(まれ)です。2月の二度の大雪によるのでしょう。さてさていつまで残雪の富士が見られるのでしょうか。



<春、夏、秋の混在>日当たりの良い斜面でヒョドリバナが咲きだしました。色は白ですがフジバ

カマ(ビオトープの四季 No. 23 参照)にそっくりな花をしていて秋の気配を感じさせます。一方、2~3ヶ月の時期遅れですが少し湿り気のある地面にちっちゃな黄色の花を付けているコナスビを見つけました。実の形が丸いナスに似ているためこの名があります。同じく黄色の花を付けているのがスベリヒユです。こちらは乾いた土でも平気で夏の炎天下を感じさせる植物です。スベリヒユはしばしば“畑の嫌われ者”とされていますが食用にもなれば解熱、解毒の薬にもなります。ギリシャやトルコではサラダなどの食材として使われるようですね。



<耐える>雑木林の脇の少し開けたところにヤマノイモが何本も生えています。その青々とした葉に小さなカタツムリが付いていました。殻をしっかりと閉じて照りつける日差し



<ヒョドリバナ>



<コハクオナジマイマイ>

に耐えているのはコハクオナジマイマイです。珍しく昼間も活動するのですがあまりの暑さと強い光に「動かぬが勝ち」とじっとしているのでしょうか。このマイマイはSHCの立地



<コナスビ>

する土屋地区を関東での数少ない棲息地の一つとしています。

(コハクオナジマイマイ) 殻の径は1cmほど。強い蛍光性のリボフラビン(ビタミンB₂)を大量に蓄えていることを私たちが最近明らかにしました。おそらく紫外線から身を護っているのでしょう。

<滑空>クズやカラムシの茂っている草むらに近づくと灰褐色のジャノメチョウが人の気配を感じてはひらひらと葉



の間から飛び立ちすぐにまた隠れます。アゲハチョウもモンシロチョウもみんな“ひらひら”と飛びますね。ところがコミスジは変わった飛び方をします。ジャノメチョウのように人の気配に敏感ですぐに飛び立ちますが翅を広げて滑空し、器用に葉蔭に隠れます。翅ばたきと滑空、上手いものです。



<スベリヒユ>

写真(上)のように白い三筋(ミスジ)の付いたグライダーです。

(文と写真: 松本正勝)